

議 事 録

会議の名称	令和4年度 第2回滑川町総合教育会議
開催日時	令和4年11月21日（月） 13時30分～15時00分
開催場所	滑川町役場 庁議室
出席者氏名	町 長：大塚信一 教育長：馬場敏男 委 員：岩崎千恵子（教育長職務代理者） 委 員：吉野さつき 委 員：中山達朗
欠席者氏名	委 員：飛田聡保
事務局及び出席職員	総務政策課長 小柳博司 総務政策課副課長 大林具視 総務政策課総務担当 武内章泰 教育委員会事務局次長 権田尚司 教育委員会事務局指導主事 寺田陽介 教育委員会事務局指導主事 野口和嵩
議題	（1）令和4年度滑川町教育行政重点施策について （2）町の教育の現状と課題について （3）その他
議事内容及び結果	別紙のとおり
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	別添のとおり
傍聴人	なし

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>【開会】</p> <p>皆さんこんにちは。本日は大変お忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただいまより令和4年度第2回滑川町総合教育会議を開催させていただきます。申し遅れましたが、本日の司会を務めます総務政策課長の小柳です。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>なお、この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定されており、すべての地方公共団体に設置が義務付けられております。</p> <p>会議を始める前に、本日配布させていただきました資料の確認をさせていただきます。まず、次第が書かれたホチキス止めの資料と、滑川町教育行政重点施策と書かれました資料、滑川町の教育についてと書かれました資料となります。すべての資料がお手元にありますでしょうか。</p> <p>それでは、次第に沿いまして進めさせていただきますと存じます。ご挨拶をいただきたいと思っております。はじめに、滑川町長大塚信一様よりお願いいたします。</p>
町長	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>本日は令和4年度第2回総合教育会議ということで、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。10月4日から公務につきまして、まだまだ新米の町長でございます。本日は、2回目の総合教育会議に、ご参集していただきまして、大変ありがとうございます。</p> <p>総合教育会議につきましては、私も総務政策課長の際に、担当として、何度か出席をし、進行した記憶がございます。</p> <p>いろいろな議論の中、戦後の政策の中では、やはり教育と行政というのはある程度機能的には分かれたほうが良いだろうという形で、ずっと進んできたような気がします。戦前のこと等を考え、そういった考えがあったのかなと思っておりますが、今は多様化していきまして、子どもたちの生活も一変し、そのような考え方はなかなかできないということで、一般行政も関与していくというのがこの会議の始まりかなと認識しております。</p> <p>私も子どもを育てましたが、学校のことは学校の先生に任せるとするのが私のスタンスですから学校に対して口をはさむことは私の信条に反するので、常に先生の言う言葉を守ってやっていけばいいと考えておりました。</p> <p>それは、自分の行政生活の中でもそのような考えがあったわけですが、ちょっと矛盾はしますが、そういった中に行政が入っていかなければなら</p>

	<p>らないような状況になってきたんだなということをつくづく考えております。教育行政と一般行政、町で言えば議会と行政ですが、両輪のように動き、お互いに歩み寄りながら、子どもたちの将来をしっかりと見据えて進めていくことが本来の形だと思いますので、ぜひ皆さんに本日の会議の中で、忌憚のないご意見をいただき、この総合教育会議が実のあるものなるように願って、私の挨拶に代えさせていただきます。よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。続きまして、馬場教育長様よりご挨拶をいただきます。よろしく申し上げます。</p>
教育長	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>本日は総合教育会議を開催いただきまして、誠にありがとうございます。先ほど町長から挨拶もありましたとおおり、行政と教育は今まである程度一線を画してきたところでありますけれども、やはり、地域全体で子どもを育成せざるを得ない。そのような状況になっております。本町でも、直面する課題、それから将来的に考えないといけない課題というのが山積している状況の中で、町長が就任され間もないこの時期に、総合教育会議をお開きいただき、今教育委員会において進めていることを聞いていただけることは本当にありがたい限りでございます。</p> <p>今、町としては、幼稚園小中学校が安定し、十分な成果をあげている一方で、不登校ですとかいろいろ面での課題が山積していることも事実です。今の教育がまだまだ十分でない部分もあり、これから大きく変化する社会の中で、この子たちが本当に生きていくために必要な力をつけるためにはとても学校だけではもう無理であるというような状況でもございます。そういった面も含めまして、町長さん等にご指導いただきながら、町の子どもたちを町で育てるということを合い言葉にしておりますので、しっかりした教育をやっていきます。そのためにも、本日様々な面から、お話し合いができればというように思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。今回の会議つきましては、大塚町長が就任されてから初めての会議となります。改めて教育委員の皆様から、自己紹介をお願いしたいと存じます。それでは、よろしくお願ひいたします。</p>
出席委員及び事務局	<p>教育委員及び事務局自己紹介</p>

事務局	<p>ありがとうございます。それでは、続いて、議長の選出に移ります。議長につきましては、滑川町総合教育会議設置要綱第4条第3項において、「会議の議長は町長をもって充てる。」と規定しておりますので、ここからは大塚町長に議長をお願いし、会議を進めていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。</p>
議長（町長）	<p>それでは、要綱に議長は町長になると定めてあるということですので、しばらくの間、議長を務めさせていただきたいと思っております。大変不慣れでございますのでよろしくお願いします。</p> <p>最初に、議事録署名人の指名を行いたいと思っております。議長において指名を申し上げます。本日の議事録署名人は、岩崎千恵子教育委員と中山達朗教育委員の二人をお願いいたします。よろしくお願いいたします。</p>
岩崎委員、中山委員	<p>よろしくお願いいたします。</p>
議長（町長）	<p>これより議題に入りたいと思っております。最初に、会議の公表についてお諮りしたいと思います。この後の案件につきましては、非公開とする案件等は含まれていないと思われまますので、公開するということがよろしいでしょうか。</p>
出席委員	<p>異議なし</p>
議長（町長）	<p>ただいま、全員の皆さんから同意をいただきましたので、本日の会議は公開といたします。次に本日の会議について、傍聴者の申し込みがあるかどうか、事務局にお尋ねいたします。</p>
事務局	<p>傍聴希望者は、おりません。</p>
議長（町長）	<p>傍聴希望者はいないようですので、議事を続けさせていただきます。</p> <p>議題（1）「令和4年度滑川町教育行政重点施策について」</p> <p>それでは、さっそく議題（1）「令和4年度滑川町教育行政重点施策について」を議題とします。事務局の説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>教育委員会事務局学校教育担当指導主事野口でございます。教育行政重点施策について説明させていただきます。</p> <p>まず1ページの表紙でございますが、滑川町教育行政重点施策の基</p>

本理念です。学んでよかったまちへーチーム滑川での教育ー 「人・まちをつなげ、未来へつながる滑川町の教育」を念頭に、「社会的・職業的に自立し、他者と共生することで、社会に貢献する人」を目指す人間像として掲げております。また、実現のために、社会的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら作り出していくための資質・能力を確実に育成する教育を実現します。表紙の裏にございますのが重点施策として令和4年度中に取り組んでいるものです。3ページをご覧ください。目標を3つ掲げております。目標1新しい時代を切り拓いていく「生きる力」をはぐくむ。目標2学校・家庭・地域の連携による教育力の向上を図る。目標3いくつになっても共に学び続けられる環境で、生涯学習を充実し、次世代に引き継ぐです。5ページをご覧ください。その目標実現のために12の施策を設定しております。本日はその12の施策のうち、より一層力を注いでいる内容として2点説明をさせていただきます。

1点目は7ページにございます施策1の③情報活用能力の育成についてです。社会の激しい変化に適応し、未来に生きる子どもたちにとって、情報収集能力、情報活用能力は欠かすことができません。令和3年度に導入したGIGAスクール構想に滑川町としても引き続き力を入れて取組を進めていきます。子どもたち一人一人が資質・能力を最大限に伸ばし、新しい時代を切り拓いて生き抜く力を身に付けることができるようにしていきます。令和3年度は1人1台のタブレットPCを、町内の小・中学校の全児童・生徒が積極的に使用すること、また、教師がどのような使い方ができるかに重点を置いて活用してまいりました。成果としてタブレットPCを使用することで、自分の意見を伝える場面や思考場面で有効に活用できることがわかりました。令和4年度は、どのような場面で活用すると児童生徒により有効であるかを見極め、さらに有効に活用しております。また、現在は情報モラル教育に力を入れており、町内のICT推進委員会と連携し、今年度中に各学校と連携し情報モラルに関しての指針や方針を作成し、活用してまいります。

最後に、ICT活用により健康面にどのような影響がでているかも調査をしていかなければなりません。児童の健康面に配慮しながら、よりよい児童生徒の育成を学校と共に目指してまいります。

2点目は8ページにございます施策4の②不登校の未然防止の推進です。不登校児童生徒数、特に中学校においての不登校生徒数が滑川町の大きな課題の一つです。滑川中学校においては令和3年度より、学習支援室として「つぼみ学級」を設立し、学校に登校できない生徒に対して学習の支援や登校への支援ができる仕組みを活用しています。その他、教職員や

	<p>相談員、カウンセラー、ソーシャルワーカーなど各種の相談窓口を準備し、悩みを抱えている生徒・保護者に対して、一つのアプローチでなく、多くのアプローチができるようにしております。加えて不登校を未然に防ぐための方策や、早期発見するための方策等、様々な策を講じて参ります。こちらについても後ほど詳細を説明させていただきます。</p> <p>11 ページまでに各施策における主な取組を記載させていただいております。また、12 ページには本重点施策の概要版を載せさせていただきました。滑川町教育大綱・第3期滑川町教育振興基本計画・滑川町教育行政重点施策の3つを連携させ、「チーム滑川」として、滑川町の子どもの教育を、確実に進めてまいります。以上で、教育行政重点施策の説明とさせていただきます。</p>
町長（町長）	<p>ただいま、事務局より説明が終わりました。本件につきまして、何かご意見・ご質問はございませんか。</p>
中山教育委員	<p>7 ページにあります施策1の③情報活用能力の育成について、1人1台のタブレットPC等の有効活用を図りながら、プログラミング教育を推進し、とありますが、これはプログラミング教育をどの辺まで見据えてやるのか、高等学校にも情報があり、大学入試科目に入ってくるわけです。当然プログラミングをやってきた学校の生徒と高校に入ってから初めてプログラミングをやる生徒では差が出てしまうと懸念されます。高等学校はスタートに立ち基礎ラインを引いているところになります。高等学校に行き、授業として、または入試科目として選択できるまでもっていくのか展望を聞かせていただきたい。</p>
事務局	<p>小学校段階からお話をさせていただきますと、プログラミングを組むことが目的とするのではなくて、まずプログラミング的な考え方ということで、ゴールを見据えた考え方、アンプラグドプログラミングと申しますが、そちらの考え方から入っていきます。そのプログラミング的な目標決めた考え方を持った上でプログラミングを実際に中学校で組み始めることや、アプリケーションを活用することで、より思考力を高めていければと考えております。</p>
中山教育委員	<p>教師の立場から見た場合に、情報の免許だけでやってる方も、年齢の高い方だとプログラミングができません。若い先生でないと大学でプログラミングをやっている方が多くありません。先日、本校で採用試験を行いました。質問してみると、従来の工業系の情報等をやってきた方の応募があり</p>

事務局	<p>ましたが、ちょっと厳しいなという感想です。プログラミングは今の小学校の若い先生が担当することが多いと思いますが、先生方は、情報というよりはプログラミングとして認識している。若しくは知識を持っていますか。</p> <p>プログラミングを学校で教えるにあたって個人のスキルに任せるとするのは少々危険なところがございますので、町のICT推進委員会というもので、プログラミングの手引き等も活用しながら推し進めていけるように、一人任せにならないように、校内等でも研修を行っているところがございます。</p>
議長（町長）	他にありますか。
吉野教育委員	施策4番に「つぼみ」の取組がありましたが、1年間経過し、どんな成果がありましたか。
事務局	<p>昨年度運用を始めた頃は、つぼみだけの利用というものが多かったですが、令和4年度に入りまして、長時間学校にいられるようになったことは、プラスになっていると思われます。また、全ての授業ではないですが、「つぼみ」から全体の学年の学習等に出向くこともできているので、「つぼみ」をきっかけに学級に戻っていくという段階が踏めていると感じております。</p>
吉野教育委員	「つぼみ」に入ったことによって、戻れなかった教室に戻ることができるようになったということですね。「つぼみ」に来ることができない子どもはどれくらいいますか。
事務局	「つぼみ」の活用が1日延べ10人ほどになっておりますので、全体で見ますと、校内の10人程度は「つぼみ」に入れない状況にあります。学校の担任や管理職、学年主任と電話連絡等を行いながら繋がりを外さないこと、また、さわやか相談室もございますので保護者と子どもで来ていただいで繋がりを外さないことに力を入れております。
吉野教育委員	不登校の子どもは減ってきているということですか。
事務局	不登校生徒数については、減ったり増えたり上下をしているところです。

議長（町長）	他にありますか。
岩崎教育員	吉野委員の関連ですが、不登校の児童生徒の傾向はずいぶん変わってきていると思っています。昔は、いじめられて不登校になってしまったという原因が多かった気がします。最近ではコロナがあり時代が変わり、学校に行きたいけど行くのが怖い等いろいろな理由があると思われま す。不登校児童生徒の要因の傾向について教えてくださいませんか。
事務局	不登校の要因は様々あるのが現状でございます。1つは友人関係というものもござい ます。また、家庭環境によって学校に出てくることができないという場合もござい ます。コロナの影響もござい ますが、コロナの影響について、少しずつ件数は減少してきているところです。
岩崎教育員	一番多い要因は何ですか。家庭環境ですか。または友人関係ですか。
事務局	家庭環境と友人関係が同数程度となっております。コロナ関係だけが少し減少してきています。小学校から引き続きということもありますが、家庭環境、友人関係、コロナの影響、それぞれの要因で不登校になっている児童生徒はいる状況です。
岩崎教育員	目標として不登校ゼロを掲げておりますが、もちろん、みんなが楽しく学校に来れることは一番いいことだと思いますが、目標を達成するための方法は様々あると思います。数値目標の達成はなかなか難しいと思いますが、どんな形であれば学び続けられるかというように、場所が学校でなくても、そのような視点で考えてもいいのではないかと思います。そのため、今後の方法についても考えていく必要があると思います。
議長（町長）	他にありますか。意見等ありませんので、「令和4年度滑川町教育行政重点施策について」を終わります。その他もござい ますので、気が付きましたらご意見を伺えればと思います。
議長（町長）	<p>議題（2）町の教育の現状と課題について</p> <p>議題（2）「町の教育の現状と課題について」を議題とします。事務局より説明を受けたのち意見交換といたします。事務局より説明をお願いします。</p>

事務局

令和4年度滑川町の教育について、資料をご覧ください。ここからは、滑川町の教育の現状と課題について、資料を基にご説明いたします。

資料の1ページ目をご覧ください。滑川町では「第3期滑川町教育振興基本計画」に基づき、教育の推進を図っております。また、地域と一体となって取組を進めることで、町の子どもを町全体で育ててまいりたいと考えております。そして、社会的・職業的に自立し、他者と共生することで、社会に貢献する人材を育成してまいります。

2ページです。第3期の滑川町教育振興基本計画はこちらにあるとおり、第5次滑川町総合振興計画、滑川町教育大綱を元に策定しております。また、下段の表のように、共に学び共に育つ「学びの共同体」を目指します。「つながり」をキーワードとし、様々な人と人をつなぐことのできる取組を推進しております。

3ページ上段にもこの内容がありますが、「町の子どもは町で育てる」という意識を町全体に浸透してまいりたいと考えております。そして、子どもたちの「滑川町」への郷土愛を育成できればと思います。

また、昨年度からの取組になりますが、3つの合い言葉を作成し、人として身に付けるべき生活習慣を確実に身に付けることができるように取組を進めております。3ページの真ん中あたり、「1 基本的な生活習慣の見直し」以下をご覧ください。基本的な生活習慣の見直しについてご説明いたします。変化が激しい世の中に対応し、人間らしく豊かに生きていくためには、基礎的な知識・技能、思考力はもちろんのこと、価値を見つけ、生み出す感性と力、好奇心・探究心など学校だけではなく家庭や地域と一体となって子どもの成長を支えていくことが必要です。子どもたちが基礎的な学力を身に付け、豊かな人間性を育むためには、子どもの基本的な生活習慣の定着が欠かせません。しかし、近年の町の状況や全国や県の学力調査の質問紙調査の結果、児童相談所の案件などから改めて町として多くの団体と協力して、生活習慣の向上を図っていかなければならない時期がきていると考えております。そこで、令和3年度から家族で大切にすべきことを「元気・学び・会話」とし、3つの合い言葉を作成し取組を進めてきました。この合い言葉のもと、子どもに関わるすべての団体で引き続き生活習慣の向上に努めていきたいと考えております。

4ページをご覧ください。朝食を毎日食べることで脳が活性化し、思考力や体力、さらには集中力も高めることができます。このような力を身に付けることで豊かな心を獲得していくことができると考えます。また、読書を習慣化することで、様々な知識を獲得できることはもちろん、成長の中で学習の習慣化へとつながり、学力の向上へとつながると考えます。さらに、家庭内でもあいさつや会話を推進することで、自己表現が進み、自

分の意思をはっきりと伝える力が身につくと考えられます。これらを町全体で取り組むことにより、滑川町の子どもたちをより大きく育てていこうとする取組です。

続いて5ページをご覧ください。学校教育を核として、地域の社会教育や家庭教育との連携・協働することで子どもの成長を支えています。子どもの資質・能力は学校だけでは育成が十分ではありません。図にもあるように、学校での指導と家庭での指導に、さらに地域が加わることで、より一層子どもの成果として現れることとなります。地域の人材を学校教育に生かすためには、地域に住む方を教室に招き一緒に活動を行うことや、学校の環境整備のお手伝いをいただくことで、地域の人材の力を教育に生かしていくとともに、地域の方にも学校のために役立っているという充足感が生まれ、より一層学校も地域も元気になり結束が増す結果となります。

6ページには、これからの子どもたちに求められる力やこれからの社会の姿を記載しております。変化の激しい社会を生き抜くことのできる子どもの育成を目指します。また、学校と家庭・地域が対等な立場の下、活動を行っていくことが重要であるととらえております。また、7ページに、中学生ボランティアについて記載しております。こちらも地域連携を踏まえ、中学生が地域へと飛び出していくことのできる一助になればという取組でございます。コロナで止まってしまった年もありましたが、本年度は計画通り実行しております。

続いて、8ページをご覧ください。昨今、教職員の働き方改革が日本全国で大きな課題となっております。滑川町では、こちらの働き方改革基本方針に沿って推進しております。また、次年度からはゆうちょ銀行様のインターネットバンキングを利用し、学校徴収金の口座振替を実施してまいります。こちらは現在登録等を行っている状況であります。本町では更に以下のことにも取組を進め、教職員の働き方改革に力を注いでおります。

9ページです。ここからは各学校の課題と方向性についてお話しさせていただきます。宮前小学校ではプールの老朽化に伴い、次年度から水泳指導を民間委託としていく予定です。また、児童数の増加に伴い、校舎の増築も検討中でございます。

福田小学校で大きな課題となっているのは児童数の減少です。これに対する策として令和6年度当初から特認校として町内の他の小学校からも福田小学校に通えるようにする方向性で検討しております。それとともに、特色ある学校を目指し、地域連携をより一層推進しているところでございます。今年度から開始した放課後子ども教室や里山プロジェクト

もこの一貫でございます。

10 ページをお願いします。下段の月の輪小学校では、プールや特別教室の地域開放を検討しております。また、南部の子ども子育て拠点としていけるよう、様々な取組を進めたいと考えております。

11 ページには中学校と幼稚園について記載させていただきました。中学校は町内唯一の中学校として、教育相談拠点、また、地域との連携の拠点として取組を進めております。昨年度よりスタートした学習相談室「つぼみ」を利用する生徒も一定数おり、必要な支援を進めております。

幼稚園では、保育園の需要が高まっている現状を踏まえ、一時預かりを昨年度より開始いたしました。また、園児数の減少を重く受け止め、再度幼稚園としての教育活動に注力してまいります。

12 ページ、13 ページには教育委員会事務局の各担当の取組を記載させていただきました。生涯学習担当では大きく分けてこちらの4つの事業に取り組んでおります。まだコロナ禍ではありますが、開催方法を工夫し、できる限り実施の方向で取組を進めております。

生涯スポーツ担当では様々なスポーツ大会を開催・運営をしております。こちらもコロナ禍ではありますが、できる限り実施を進めているところでございます。

次のページにまいります。文化財担当では、試掘・発掘調査の他、文化財の普及に努めております。また、ミヤコタナゴの野生復帰への取組も進めております。

図書館担当では昨年度滑川町子ども読書推進計画を策定し、読書活動の推進を図っております。また、大きな事業として電子図書館を開始いたしました。比企地区内の7市町で協力し現在のところ順調に稼働しております。今後も滑川町の児童生徒が本に親しみ、豊かな生活が送れるようにしてまいりたいと思っております。

14 ページをご覧ください。教育委員会事務局では町民の思いを大切に、学校と地域をつなげていきたいと考えております。その中でここにあるように、「ミヤコタナゴ」の野生復帰を目指し計画的に進めてまいります。この場での世代間交流を大切に、「町の子どもは町で育てる」を実現してまいります。事務局からの説明は以上です。

議長（町長）

ご説明がございました。ここについては皆さんで意見交換をしたいと思っております。私から少しお話しさせていただきます。

先ほどの「令和4年度滑川町教育行政重点施策について」や「教育の現状と課題について」について事務局から説明いただきましたが、私のスタ

ンスとしては学校の先生は素晴らしい人なので何の口出しもしないということで子育てをしてきました。数年前に小澤前教育長がご健在のところに、滑川町の課長会議の場で押し付けではございませんが、「滑川町が子どもたちのために、頑張っているんだよ」ということを子どもたちに伝えてほしいことをお願いしました。そういったことを子どもたちに伝えないと、子どもたちが成長した際に、滑川町に愛着を持っていただけないと考えております。たまたま、今月上旬に大分県の滝廉太郎の「荒城の月」のモデルになりました竹田市の元市長の講演を聞きました。その講演の中の切り取りにはなってしまいますが、「今の子どもたちは、小学、中学、高校、大学といっぱい勉強をし、大学を卒業していき、外へ出て行ってしまう。一番大切な時期に、自分の地の大切なものを教えてあげられないことはだめなのではないか」というお話がありました。そのお話を聞いた時に、なるほどと感じました。私もこのような立場になったので、中学校の時期に、「滑川町はこれだけのことをやってくれた」ということを一瞬でも思っていれば、将来、中学、高校、大学と進み社会に出ていくと思いますが、その中から、滑川町を何とかしたいと思う子どもたちも出てくるのではないかと思います。それは、前任の小澤教育長にお話しさせていただきました。鮭をいっぱい放流して、帰って来るのは数パーセントという話と一緒にしてはまずいと思いますが、子どもたちは夢を持って外へ出ていくと思いますが、その中で滑川町のために何かをしたいと思う子が一人でも二人でもいてくれればいいのかと常に思っておりました。また、中学校の総合学習の際に、大塚一男先生が町の文化財の話をしたことをフェイスブックで見ました。町の文化財に親しむことは郷土愛に繋がるということで、大事なことだとお話ししました。町を好きになってもらいたいということは一番の考えであります。強制するわけではありませんが、気持ちのどこかに留めておいてもらいたいということが個人的な希望です。私からお話しさせていただきましたが、皆さんからご意見があればよろしくお願ひします。総務政策課長にお伺ひしたいと思います。

事務局

町長よりお話がありましたとおり、11月初旬に講演を聞きましたが、今まで感じてきたことと違和感がないと申しますか、そうだなと思うようなお話を聞いてきました。ただ、改めて聞いてみると、どこか置いてきてしまったことがあるなということをつくづく感じたところです。先ほど町長がおっしゃられたように、第一弾としては、滑川町で学んでいる児童生徒の方に滑川町の郷土、滑川町というものを知っていただく、知った中で、郷土愛というものが結果として出てくるのではないかと思います。最初から郷土を愛しなさいというよりは、郷土を知るためのプログラ

	<p>ムを組み込んでいっていただくのがいいのかなと感じます。義務教育の間、9年間ありますから、この間に、ある一定の期間だけではなく、継続して、子どもの成長過程に応じたプログラムを組み込んでいっていただければいいなと個人的には感じております。現在では、学習の時間を確保することは大変だと思いますが、授業時間、放課後の時間を含めた中で、様々な政策を打っていく必要があるのではないかと思いますので、町としてもできる範囲で精一杯やっていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いしたいと思っております。</p>
<p>議長（町長）</p>	<p>他にありますか。岩崎教育委員。</p>
<p>岩崎教育委員</p>	<p>皆さんにお伺いしてもいいですか。</p>
<p>議長（町長）</p>	<p>どうぞ、自由に意見交換の場でありますのでお願いします。</p>
<p>岩崎教育委員</p>	<p>出席者の皆さんにお伺いしたいのですが、郷土愛といいますか、自分の生まれ育った場所のいいところや誇れるものはありますか。</p>
<p>出席者</p>	<p>出席者全員が報告。</p>
<p>岩崎教育委員</p>	<p>皆さんありがとうございました。記憶に残るということに関して、私は縁があり農家レストランの仕事を3年携わらせてもらっています。全くレストランをやるつもりはありませんでした。そのレストランで先日、うどんを食べにいらしたお客さんがいました。帰り際に「母を思い出しました。30数年前に亡くなっておりますが、滑川町に住んでいた母を思い出しました。どこのうどんを食べても母の味と違いましたが、このうどんはまさに母の味でした。」とおっしゃっていました。上手だということではなく、私たちが母に教えてもらったうどんなので、昔ながらのうどんです。それを食べて、母の味を思い出したと言ってくれたと思いますが、このようなことは大事なんだなと思いました。味や香りや食感というのは、どこか記憶に残っていて、それがどこかで思い出されると思います。記憶に残っていないことは、思い出すことができないので、食べることやお祭りや人との関係等の記憶を今の子どもたちにも持ってもらいたい。滑川町には何でもあるから何でもお料理が作れる等、そういった記憶を大事にしたいと思いました。私は、教師になってから授業で旬を子どもたちに教えたことがあります。今の時代はスーパーに行けば何でも売っているので教えないと分かりませんが、私の記憶では、旬は怖かったことを覚え</p>

<p>議長（町長）</p>	<p>ています。キュウリの季節なると、朝晩、キュウリだけ、ナスの季節にはナスばかり、大根の季節は大根。その野菜を食べるとこの季節が来たなど食べ物を食べて感じる事ができたなと思いました。なんでもない記憶ですが、今の子どもたちに経験させてあげたいことが、地元でとれた季節の味を記憶の中に置いておいて、忘れてしまったとしても、味によってその記憶を呼び戻せるようなたくさんの記憶、暮らしの記憶を見つけていくような取組を教育と行政で行うことができれば、町長さんの提案にも繋がってくるのかなと思いました。</p> <p>私も孫ができてから1年の節目を大切にしようと思い、節分等の儀式や、十五夜、十三夜ではススキを飾り、孫たちと楽しみ、うどんを打ったりすることで、子どもたちに印象をつけて、そういうおじいさんがいたなと思ってもらえるように一生懸命しています。必ずうちのお月見の時にはお月様が2つあると言われます。</p> <p>ある会社の社長さんに言われた話ですが、竹が強いのは節があるためであり、人間にとっても節目節目は大事にしたほうが良いというお話でした。そういった年の節目の行事については、子どもが小さい時からやっておりましたが、岩崎委員がおっしゃたように、記憶に残るものだと思っておりますので大事にしていきたいと思ひささやかながらやっています。</p>
<p>事務局</p>	<p>小学校の時の1番の思い出が、土塩から福田小学校までは4キロ近くあると思いますが、1年生の時に通学班の上級生がカバンを持ってくれました。それには理由があり、集合時間が遅いため、最後はゆっくり歩いている時間が無くなってしまうためです。その記憶というのはすごく残っています。軽い格好で学校に引っ張って行ってくれたことは、今ではできないと思いますが、お世話になったなと感謝しております。</p>
<p>議長（町長）</p>	<p>岩崎教育委員のお話にお祭りの話がありましたが、滑川町には伝統的なお祭りというものがありません。何百年続く祭りがないため、今できるお祭りを考えております。嵐山町に聞きますと年間6回の祭りが開催されているようです。</p>
<p>中山教育委員</p>	<p>嵐山町の駅前のお祭りについて縁あって話を聞くことができ、「行かせてもらいましたが、昔はそんなにではなかったですね。今はすごいですね」と何うと、色々苦勞があり、若い人たちが「ああしよう、こうしよう」と案をだし、年寄の人たちが「それで行こう」としたそうです。3年</p>

<p>議長（町長）</p>	<p>前に伺いましたが、人が多く、出店などもよく、イベント的な要素もすごく良いと感じました。滑川町では昔、盆踊りがよく盛り上がったと思います。三日三晩やっていて、中学生ながら三日間行きました。先生方が見回り等を行っていましたが、今は、そこまでのことはできないと思います。若い方たちの「ああしよう、こうしよう」という提案を、年配の方たちの経験を基にアレンジしていった結果、お祭りが変わっていったと嵐山町のお祭りの会長さんがおっしゃっていました。</p> <p>今、私たちができるお祭りをして行くしかないと思っていますし、私たちは60歳を超えているから、若い人たちからすれば、親父が何を言うてるんだという意見もあるかと思いますが、中山教育委員がおっしゃるよう若い人たちの考えを繋げていき、先日、佐久間町長がおっしゃっていたのは、「変わったのは、年寄が口を挟まなくなっただけだ」と、今までは、上からガンガン言ったため、子育て世代の方が出て来ても、それならと出て来なくなってしまった。若い世代の意見を前に出して、実施するようになるとお祭りが盛んになってきた。お祭りと付くイベントが嵐山では年間6回あると聞いています。今、滑川町のお祭りというものは一つもなく、今年が終わろうとしています。どこかが音頭を取り実施するのか、難しいと思います。本来は、地域が音頭を取って実施することが一番長続きすると思います。行政がやると毎年予算の関係等もあり終わってしまう可能性もありますが、きっかけは作らなければならないと考えております。町の商工担当に、遊び心を持って、今から様々なことを仕掛けていく、できなければできなくていいと話をしておりますので、その辺については、ご期待いただければと思います。</p>
<p>吉野教育委員</p>	<p>各地区でお祭りというのはやっていたか。</p>
<p>議長（町長）</p>	<p>昔ながらの伝統的なお祭りというものはなく、ささら獅子は歴史がありますが、その他には、彼岸やぐらや両表でのお祭りや、本当に小さいふれあい事業などがありますが、ふれあい事業については、行政が手を引いた時に下火になってしまった。そこにコロナが追い打ちをかけました。先日、地域のふれあい祭りがあり、行きましたら滑川まつりを負かすような大きなトラックが来ておりました。結局子どもたちは育って行ってしまいます。やはり、祖父母というのは、子どもが保育園等で習ってきたことをそういったイベントでやることを楽しみにしているが、滑川まつりをやらないということで、何かしらの機会を作ることを考えております。実際に考えているのが、桜をライトアップして、桜まつりを協力できる方に</p>

	<p>お願いし実施することを考えています。唯一、令和4年度のお祭りになるかと思われます。人が集まってくれば様々な話ができ、行政に話が戻ってくると思っています。学校関係も同様だと思います。人が集まれば、必ずそれを何とかしようとする話が出てくるので、その人をリーダーとして、地域を活発化していただければ良いなと思っております。選挙の時に訴えてきたことですが、昔のコミュニティができて、そこから様々な話が出て、町へ話が来てという循環ができることで、町が元気になっていくし、さらに、小学生や中学生にもそういったことに参加してもらい、育っていくことが大事なんだと思っています。</p> <p>論点が外れてしまい申し訳ありません。他に意見等はございますか。</p> <p>先ほど、町長から町を好きになる。総務政策課長から町を知るといってお話がありました。学校現場であまりそういう意識はありませんでした。センターに勤務した際に、所長から、いずれまた、学校現場に戻るようになる。その時に、一番大事なことは、職員に地域・人・勤務校を好きになること。先生方がそういった意識を持てば、自然と地域との連携や触れ合いができてくる。地域の住民を好きになれば、地域の人々が理解するし、また、職員も地域を理解する。もちろん、勤務校たる学校を好きになる。話を聞いていると、教員という立場からこの話を考えたときに、学校というのは子どもたちです。行政というのは地域、学校と行政が両輪という話がありましたが、皆さんの話を聞いていると、そういえばこのような話を聞いたなと思い出しました。教員についても、小学校教諭はいろいろなところから来ます。例えば、川越市や入間市から滑川町にやってきます。生活スタイルや地域も全く違うとことから来て仕事をやっていく中で大切なことは、滑川町をよく知ってください、滑川町の子たちは滑川町で育てるのですよ。先生たちに研修のような話をするよりは、地域に出て行って、学校周辺を歩いてみることで地域の人たちと話ができるでしょうし、教員自らがすることによって、子どもたちに還元していくことができるのではないかと思う。今までも3つの言葉を理解しているつもりでしたが、今日のお話を聞いて、違う立場に立ってみれば、そういうことにも還元できる言葉なんだなと思いました。地域と人と職場、学校を好きになる。何らかの機会がありましたらご活用ください。</p> <p>中山教育委員がおっしゃったことは、今月初旬に行きました講演会の中でもお話がありました。講師のお話の中に先生にもお願いすることとありました。他所から赴任してきた先生に、まず、自分の町のことを知っていただく。町の良いところを頭の中に入れてくれれば、子どもと話をし</p>
中山教育委員	
議長（町長）	

	<p>たときにそれが出る。子どもにとって、先生の言うことは絶対だと思いませんから、頭に残ると思います。それが、郷土を好きになるきっかけになると思います。まずは先生にお願いする必要があるという講師の話でした。滑川町には二ノ宮山という素晴らしい山があり、滑川町で一番高い山で、標高は 131 メートルでこんな行事があったんだということを時間のある時に子どもに話をすれば印象に残るだろうし、それだけでなく、森林公園については、みんなが行ったことはあるだろうけど、町の 1 割の面積があるなど話をすることで、子どもたちは目をキラキラと輝かせながら聞いてくれるのかなと思います。講師と中山教育委員の話を聞いて、そこは先生にお願いしなきゃいけないのかなと思いました。</p>
議長（町長）	<p>他に意見等ございますか。それでは、以上で（2）「町の教育の現状と課題について」を終了いたします。</p>
議長（町長）	<p>続きますて、議題（3）「その他」ですが、事務局より何かございますか。</p>
事務局	<p>今回、2 回目の総合教育会議を開催させていただきました。次回につきましては、協議事項がありましたら開催させていただきますのでよろしくをお願いします。</p>
議長（町長）	<p>会議の中では出ませんでしたでしたが、滑川中学校が駅伝の全国大会に出場します。学力だけでなくスポーツにおいても、町内に明るいニュースを作ってください、非常にありがたいなと思います。できる限りバックアップをしていきたいと思いますので、子どもたちにはぜひ頑張ってくださいねと思います。よろしくお願いします。</p>
議長（町長）	<p>これもちまして、すべての協議事項が終わりました。皆様のご協力をいただきまして、無事議長の任を務めることができました。これで議長の任を解かさせていただきます。ご協力大変ありがとうございました。</p>
事務局	<p>【閉会】 大塚町長には、議事進行、大変ありがとうございました。委員の皆様にも日頃なかなか話せないようなお話を伺いました。また、貴重なご意見を拝聴することができました。大変ありがとうございました。以上もちまして、令和 4 年度第 2 回滑川町総合教育会議を終了いたします。</p>

この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人は次に署名する。

令和4年 12 月 19 日

岩崎 子恵子

中 込 達 朗
